

報道関係各位  
(大学・宗教同時)

京都産業大学 広報部

「祇園祭 <sup>かんこ</sup> 函谷鉾」の運営に学生が参画

伝統文化の継承に取り組む活動が今年も本格スタート！

京都産業大学文化学部では、2013年から「函谷鉾」の運営に参画し、後継者不足や役員の高齢化などの問題を抱える鉾町の伝統文化の継承※に取り組んでいます。このたび、日本三大祭でありユネスコ無形文化遺産に登録されている祇園祭の山鉾巡行を担う函谷鉾保存会の理事長らが本学を訪問し、学生に対して歴史や運営などについての講義を行います。ぜひご取材いただき、広くご紹介くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

※函谷鉾が抱える課題とは

「くじ取らず」の鉾2番が定位置の函谷鉾であるが、町内居住者が皆無となり、役員の高齢化などにより存続が危ぶまれるなど多くの課題を抱えており、伝統文化の継承に取り組んでいます。

【本件のポイント】

- ・昨年度は、祇園祭の完全開催のもと、先輩たちがつないできた活動を継承し、文化学部小林一彦ゼミに所属する学生および京都文化フィールド演習の履修生が取り組みに参加した。今年度は、昨年度からの継続メンバーに加え、新たな学生も参加し、「KSUチーム函谷鉾2026」の総勢66名で準備に励んでいる。今年度チームを束ねる総長は、3回生の女子学生が務めており、伝統的な祭礼運営における新たな担い手像として関心を集める取り組みである。
- ・本年は、函谷鉾保存会が山鉾町の中で他の保存会に先駆けて、財団法人化してから「60周年」を迎える節目の年であり、伝統文化の継承の重要性が改めて注目されている。
- ・町衆の一員として祇園祭の運営に参画するにあたり、函谷鉾保存会理事長、専務理事、伝承委員ら現場の方々から講義を受け、祭の歴史や運営に関する基礎知識を学修する。講義を通じて、自らも創始1157年に及ぶ祇園祭の歴史を未来へと伝える一員であること、先輩たちが実践してきた伝統継承の意義を理解する。
- ・これまでのゼミ活動として、鉾町に関する調査研究およびその成果発表や、コロナ禍における「提灯落とし」を再現した動画制作などにも取り組み、社会的にも反響を得ている。

函谷鉾保存会役員による函谷鉾の運営についての講義

日時：2026年5月21日(木)16:45~18:15

場所：京都産業大学 5号館 5301教室

内容：祇園祭の歴史と意義 函谷鉾の運営について

講師：函谷鉾保存会理事長、専務理事、伝承委員

参加：小林一彦教授担当ゼミ1年次生~4年次生 計66人(5月19日時点)

備考：学生への取材を希望される場合は、18:15以降に時間を設けます。

※場所の都合上、事前に出席確認をさせていただきます。ご取材いただける場合は、大変お手数をおかけいたしますが、5月20日(水)16時までに広報部へご連絡ください。

本件に関するお問い合わせ先

取材について 京都産業大学広報部 TEL:075-705-1411